

フィジー語の複他動詞と投擲動詞

岡本 進

(東京外国語大学大学院)

キーワード：複他動詞，意味役割，名詞抱合

1. はじめに

フィジー語はオーストロネシア語族、東マラヨ・ポリネシア語派、オセアニア諸語に属す言語で、基本語順はVPAである(Ethnologueより要約)。本稿の目的は、フィジー語の複他動詞は、通言語的にどのように位置づけられるかを考察することである。

本稿の例文・図表番号、グロス、文字飾り、先行研究の日本語訳については、特に断りのない限り筆者によるものである。出典を明記していない例文については筆者が作例したものであり、それらについてはすべてフィジー語母語話者であるLG氏(男性、1962年生まれ)の確認を取っている。

2. 単他動詞

単他動詞は、動詞語根に他動詞派生接尾辞-Ci, -Cakiが付加された形式で表される¹。これらの接尾辞は3人称単数の目的語標示-aとの音融合により、-Ca, -Cakaとなる(Schütz 1985: 132)。(1)は-Ciが動詞語根に付加された単他動詞文である。

(1) au na moku-t-a_{PREDICATE} [na i vakatawa]_P

1SG FUT strike-TR-3SG ART guard

「わたしは羊飼いを打つ」

(新約聖書: マタイによる福音書 26章 31節²)

3. 複他動詞

3.1節で典型的な複他動詞について述べ、3.2節ではそれと異なる振る舞いをする別の種類の動詞(投擲動詞)について述べる。

¹ Cは子音(ゼロを含む)を表し、どの子音が現れるかは動詞ごとに語彙的に定められている(Milner 1956: 27)。本稿では、-Ci, -Cakiの付加された他動詞をそれぞれ-Ci他動詞、-Caki他動詞のように言及する。

² 本稿における聖書からの引用とその日本語訳は、それぞれRokovada et al.(eds.)(2010) “Nai Vola Tabu Vakadewataki Vou”と共同訳聖書実行委員会(編)(1988)『聖書 新共同訳』による。

3.1 典型的な複他動詞

Malchukov et al.(2010: 2)は、‘give’, ‘lend’, ‘hand’, ‘sell’ など、物理的な譲渡を表す動詞を典型的な複他動詞であるとしている。本小節ではこのような動詞について見る。

フィジー語の *solia* ‘give’ の配列は indirective(T=P≠R)タイプである。以下、具体例を見る。(2a)、(2b)に見るように、T項は動詞の *-a* と一致しており、(1)の単他動詞の P項と同様のふるまいをしている。(2b)では R項は前置詞で標示されている。

(2)a. *sa tala-ø-a mai* _{PREDICATE} [*e dua na tamata*]_P [*na Kalou*]_A

ASP send-TR-3SG hither 3SG one ART man ART god

「神から遣わされた一人の人がいた (lit. 神が一人の男を送った)。」

(新約聖書: ヨハネによる福音書 1章 6節)

b. *dou soli-ø-a ga* _{PREDICATE} [*vei ira*]_R [*na kaa+kana me+ra kani-ø-a*]_T

2PA give-TR-3SG only to 3PL ART thing+eat SUB+3PL eat-TR-3SG

「あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい」

(新約聖書: マタイによる福音書 14章 16節)

3.2 投擲動詞

Malchukov et al.(2010)は、3.1節で述べたように、‘give’にあたる動詞を典型的な複他動詞としているが、‘throw’にあたる動詞(以下投擲動詞とする)についても、記述は少ないものの、考慮している(Malchukov et al. 2010: 49, 54- 55 など)。本小節では投擲動詞について述べる。

Dixon(1988: 217)は、‘ditransitive’ という術語を用いていないものの、フィジー語ボウマ一方言において、これらの動詞は「3つの「参与者」が必然的に関わらなければならない活動を表す動詞」であるとし、複他動詞の一種であることを示唆している。

投擲動詞は、T項の種類や投げ方によって異なる語根を持つという点で興味深い(表 1)。

表 1: 投擲動詞の例

<i>virika</i>	(石、ボールを)投げる	<i>rabo-ka</i>	(投石器で)投げる
<i>kolo-va</i>	(棒、棍棒を)投げる	<i>dia-ka</i>	(ナイフを)投げる

(Schütz 1985: 139 より抜粋)

もう一つ興味深いのは、3.1 節で見た典型的な複他動詞が *indirective*(T=P≠R) タイプの配列であるのに対し、このような投擲動詞の *-Ci* 他動詞形はすべて、*secundative*(T≠P=R) タイプの配列であるように思われる点である。(3)では、動詞の目的語標示は(明示的な名詞句はないものの)R 項を示し、T 項は前置詞 *e* で標示されている。

- (3) (...) *ka vaka-viri-k-a* _{PREDICATE} [*e+na* *vatu*]_T
 and *FREQ-throw-TR-3SG* *with+ART* *stone*
 「(都の外に引きずり出して)石を投げ始めた」

(新約聖書: 使徒言行録 7 章 58 節)

投擲動詞は他動詞接尾辞 *-Ci* だけでなく、*-Caki* も付加されうる。投擲動詞の *-Caki* 他動詞形は T 項を目的語に取るので、*indirective* タイプの配列である。

- (4) (...) *rau viri-tak-a tiko* _{PREDICATE} [*na no-drau lawa*]_T [*ki wasaliwa*]_R
 3DU *throw-TR-3SG CNT* *ART PC-3DU* *net* *to* *ocean*
 「(...)湖で網を打っている (のを御覧になった)」

(新約聖書: マルコによる福音書 1 章 16 節)

4. 考察

前節で見たように、同じ *-Ci* という他動詞接尾辞が付加されていても、典型的な複他動詞と投擲動詞で配列が異なっている。すなわち、前者は *indirective* タイプであるが、後者は *secundative* タイプである。この相違について本節で考察する。

4.1. *-Ci* 他動詞目的語の意味役割

結論から述べると、投擲動詞の *-Ci* 他動詞形の目的語は *recipient* ではない。たとえば、(5)の *gone* 「子供」はボールを受け取ることを含意しない。受け取ることを含意しないということから、(5)の *gone* 「子供」の意味役割は *recipient* ではなく *goal* であるといえる。

- (5) *e aa viri-k-a* _{PREDICATE} [*na gone*]_{goal} [*e na polo*]_T
 3SG *PST* *throw-TR-3SG* *ART* *child* *with* *ART* *ball*
 「彼は子供にボールを投げつけた(子供はボールをキャッチしてない)」

-Ci 他動詞が goal を目的語に取ることは、(6)のような移動動詞からも明らかである。

(6) *era lako-v-a* _{PREDICATE} [*na raba ni vuravura*]_{goal} (...)

3PL go-TR-3SG ART width of earth

「彼らは地上の広い場所に攻め上って行って、(...)」

(新約聖書: ヨハネの黙示録 20 章 9 節)

加えて、(7)のように -Ci 他動詞は location も目的語に取りうる。

(7) *eratou qoli-v-a* _{PREDICATE} [*na vanua oqoo*]_{location}

3PA fish-TR-3SG ART place this

「彼らはここで釣りをする」

(Milner 1956: 26)

以上のことを踏まえ、Malchukov et al.(2010: 52)の R 項の意味地図を用いて -Ci 他動詞が取りうる目的語の意味役割を表すと図 1 のようになる。

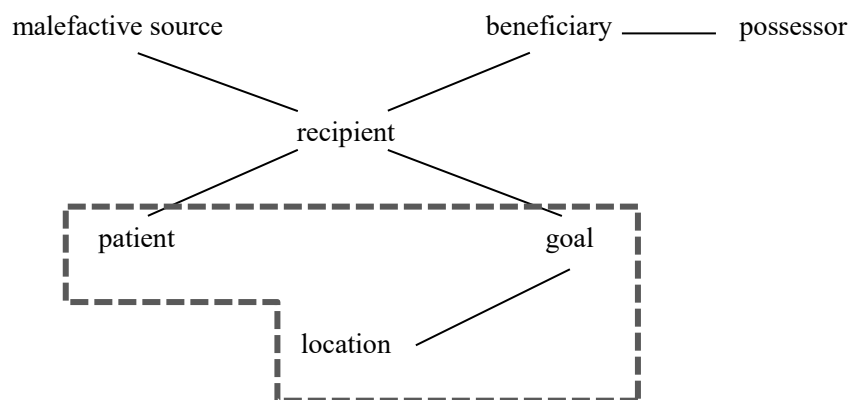


図 1: -Ci が表す目的語の意味役割(.....線内)

-Ci 他動詞は、patient だけでなく、様々な意味役割の名詞句を目的語にとり、そこには goal も含まれる。しかし recipient は目的語として実現できないので、必ず前置詞で標示される。次小節では recipient を標示する前置詞について詳述する。

4.2. 前置詞 *vei* / *ki*

Newman(1996)によれば、通言語的に recipient は goal と同様の扱いを受けうる(Newman 1996: 88- 89)。フィジー語の recipient と goal についてもこのことが当てはまり、前置詞 *vei* / *ki* で標示される³。(8)は goal の例である。

(8) *erau lako tiko* _{PREDICATE} [*ki na i teitei*]_{goal}
 3DU go CNT to ART garden
 「彼らは庭に行っている」

(Schütz 1985: 346)

(9)は recipient の例である。3.2 節で述べたように、投擲動詞の *-Caki* 他動詞形は indirective タイプの配列であり、recipient は *vei* で標示される。

(9) *e aa viri-tak-a* _{PREDICATE} [*na polo*]_T [*vei Jone*]_{recipient}
 3SG PST throw-TR-3SG ART ball to PN
 「彼はチョネにボールを投げた(チョネはキャッチした)」

以上のことを踏まえ、Malchukov et al.(2010: 52)の R 項の意味地図を用いて *vei* / *ki* の表す範囲を示すと、図 2 のようになる。

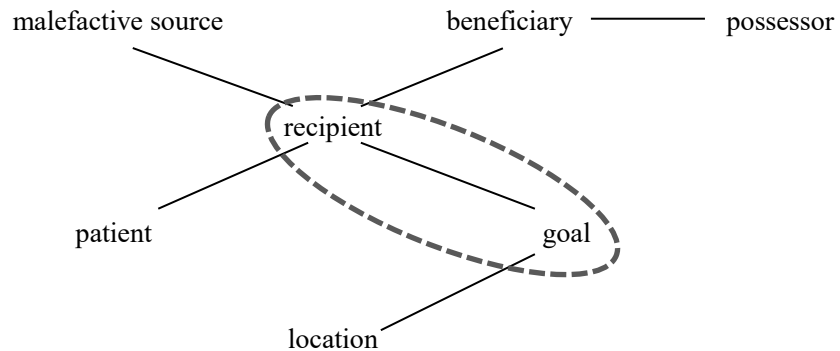


図 2: 前置詞 *vei* / *ki* の意味地図(.....線内)

³ *vei* と *ki* の出現は相補分布的である。前者は人名・代名詞に前置し、後者は地名・普通名詞に前置する。

4.3. 抱合

Malchukov et al.(2010: 43)によれば、複他動詞構文において、R項ではなくT項が抱合される傾向がある。フィジー語においても、T項の抱合が観察される。(10)はその例である。フィジー語の抱合は、(i)-*Ci*, -*Caki*の欠如、(ii)名詞句の冠詞 *na* の欠如、(iii)動詞語根と名詞句の隣接性という3点で特徴づけられる(Aranovich 2013: 479-480)。(10)では動詞 *solu* が接尾辞 *-ai* なしで現れ(通常他動詞文では(2a)のように *solu-ø-a* という形式で用いられる)、T項である *kaa ni loloma* が抱合されている⁴。

(10) (...) *ni o sa solu [kaa ni loloma]*_{T_PREDICATE} (...)

when 2SG ASP give thing of love

「(...)あなたは施しをするときには、(...)」

(新約聖書: マタイによる福音書 6章2節)

R項の抱合は、recipientでは許容されないが(11)a、goalでは許容される(11)b。

(11)a.* *au aa solu [gone]*_{recipient_PREDICATE} b. *au aa viri [gone]*_{goal_PREDICATE}

1SG PST give child

1SG PST throw child

(「子供に与えた」を意図)

「私は子供に投げた」

フィジー語の複他動詞構文の抱合について、次のようにまとめることができる。目的語がT項の場合、抱合可能である。目的語がR項の場合、goalであれば抱合可能であるが、recipientであれば抱合不可能である。

5. おわりに

本稿ではフィジー語の投擲動詞を複他動詞として分析し、典型的な複他動詞構文との相違を明らかにした。その結果を踏まえると、複他動詞構文と投擲動詞構文の配列は、それぞれ次頁の図3、図4のよう図示できる。

⁴ フィジー語では、(10)のように、名詞語幹のみならず名詞句も「抱合」されうる。音韻的に一語を構成しているとは言えないため、(10)のような形式を名詞抱合とみなさない立場もある(Gerds 1998 など)。この問題については稿を改めて論じる。

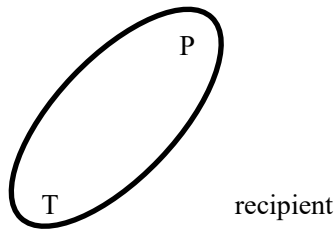


図 3: 単他動詞と複他動詞の項の対応

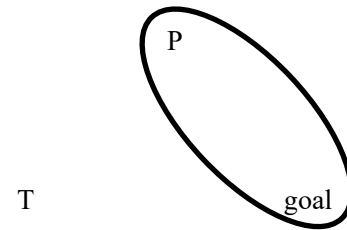


図 4: 単他動詞と投擲動詞の項の対応

Malchukov et al.(2010)では、‘give’を典型的な複他動詞としているため、R項は *recipient* を想定している(Malchukov et al. 2010: 2)。このような A, *recipient*, T の3項の対立を持つ複他動詞の場合、フィジー語は *indirective* タイプの配列である(図3)。一方、投擲動詞は A, *goal*, T の3項の対立を持つ。そのため、非典型的な複他動詞と見なすことができ、その配列は *secundative* タイプである(図4)。このような配列の違いは、フィジー語において、*recipient* は他動詞目的語となりえないが、*goal* はなりうるということに起因する(4.1節)。

このことから、フィジー語の *recipient* は必ず前置詞句で現れると換言できる。*recipient* は *goal* と同じ前置詞 *vei/ki* で標示できる。これは通言語学的によく観察される分布である(4.2節)。

加えて、*recipient* と *goal* の差異は、抱合の成立にも関わっているということを示した。すなわち *goal* は抱合の目的語として現れうるが、*recipient* は現れない(4.3節)。

本稿では、通言語的な対照のため、フィジー語の投擲動詞を複他動詞として扱った。しかし、フィジー語の記述において、投擲動詞を複他動詞とみなすべきか否かという問題がある。前置詞句を必須項と見なすか周辺項と見なすかについてもまた、今後考察する必要がある。

略号一覧

-	morpheme boundary	形態素境界	PA	paucal	少数
+	fusion	融合	PC	possessive classifier	所有類別
1, 2, 3	1st, 2nd, 3rd person	1, 2, 3 人称	PL	plural	複数
ART	article	冠詞	PN	proper noun	固有名詞
ASP	aspect	アスペクト	PST	past	過去
CNT	continuous	継続	SG	singular	単数
DU	dual	双数	SUB	subordinate marker	従属節標示
FREQ	frequentative	反復	TR	transitive suffix	他動
FUT	future	未来			

調査資料

共同訳聖書実行委員会（編）（1988）『聖書 新共同訳』東京：日本聖書協会。

Rokovada, Vilimoni, Unaisi Rokovada, Epeli Tarai, Emosi Kainabau, Josateki Koroi, James Michael

Ah Koy, Robert Wolfgramm (eds.) (2010) *Nai Vola Tabu Vakadewataki Vou (New Fijian Translation Bible)*. Suva: Ah Koy Christian Trust.

参考文献・URL

Aranovich, Paúl (2013) Transitivity and polysynthesis in Fijian. *Language* 89 (3), 465- 500.

Dixon, R. M. W. (1988) *A Grammar of Boumaa Fijian*. Chicago: University of Chicago Press.

Gerds, Donna B. (1998) Incorporation. In: Andrew Spencer and M. Arnold Zwicky (eds.) *The Handbook of Morphology*, 84- 100. Oxford: Blackwell.

Malchukov, Andrej, Martin Haspelmath and Bernard Comrie (2010) Ditransitive Constructions: A Typological Overview. In: Malchukov, Andrej and Martin Haspelmath and Bernard Comrie (eds.) *Studies in Ditransitive Constructions: A Comparative Handbook*, 1- 64. Berlin/New York: De Gruyter Mouton.

Milner, G. B. (1956) *Fijian Grammar*. Suva: Government Press.

Newman, John (1996) *Give: A Cognitive Linguistic Study*. Berlin/New York: De Gruyter Mouton.

Schütz, Albert J. (1985) *Fijian Language*. Honolulu: University of Hawaii Press.

Ethnologue Fijian: <http://www.ethnologue.com/language/fij> (最終閲覧日 2016/5/18)

Ditransitive Verbs and Throwing Verbs in Fijian

OKAMOTO Susumu

(Tokyo University of Foreign Studies)

The purpose of this article is to provide an explanation as to why two types of verbs in Fijian — typical ditransitive verbs and throwing verbs — employ different types of alignment.

Malchukov et al. (2010) regards ‘give’ as a typical verb of ditransitive construction. Fijian typical ditransitive verbs, like *solia* ‘give’, employ indirective alignment; T behaves the same way as P of monotransitive constructions and R is marked with the preposition *ki*, *vei* ‘to’ ($T = P \neq R$). In contrast, verbs describing an action of throwing (throwing verbs), like *virika* ‘throw’, employ secundative alignment, T behaving differently from R and P ($T \neq P = R$).

This difference of alignment types between typical ditransitive verbs and throwing verbs can be explained as follows. Typical ditransitive verbs implies the change of possession. Throwing verbs, on the other hand, does not contain such an implication. In other words, R of typical ditransitive verbs is “recipient” and R of throwing verb is “goal”. This semantic difference of R is related with noun incorporation; “recipient” cannot be incorporated, however, “goal” can be incorporated.

In conclusion, while “goal” can be an object of transitive verbs, “recipient” can never appear in the object position of transitive clause.